

2021(令和3)年度 全国学力・学習状況調査

逗子市の結果について

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

(2) 調査の対象

- 逗子市立小学校第6学年児童 434名
- 逗子市立中学校第3学年生徒 336名



(3) 調査の内容

①教科に関する調査（国語，算数・数学）

国語、算数・数学 はそれぞれ次の（ア）と（イ）を一体的に出題。

- （ア）身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など
- （イ）知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

②質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施。
- 本年度の主な調査項目は以下のとおり。

- ・挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等
- ・部活動に関する状況
- ・ICTを活用した学習状況
- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況
- ・学習に対する興味・関心や授業の理解度等
- ・新型コロナウイルス感染症の影響

(4) 調査の方式 悉皆調査

(5) 調査日時 2021年（令和3年）5月27日（木）

(6) 調査結果の分析にあたって留意したこと

本調査の結果から見てとれることとして、次のような点に留意して分析を行った。

- ①実施教科が「国語」「算数・数学」の2教科であり、学習指導要領のすべてを網羅するものではないことから、児童生徒が身につけるべき学力の特定一部であること。
- ②年度により問題の質が異なるため、経年変化の状況のみから学力の向上・低下の傾向を容易に評価することは難しいこと。

(7) 調査結果(正答率)

(小学校)

教科	逗子市正答率	神奈川県正答率	全国正答率
国語	64.0 %	63.0 %	64.7 %
算数	72.0 %	70.0 %	70.2 %

(中学校)

教科	逗子市正答率	神奈川県正答率	全国正答率
国語	71.0 %	65.0 %	64.6 %
数学	63.0 %	58.0 %	57.2 %

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（小学国語）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>結果の概要</p>	<p>全体の平均正答率は64%であり、県及び全国平均と比較し同程度のポイントであった。</p> <p>しかしながら、学習指導要領の内容のうち、知識及び技能に関する分類では、全国平均と比較し約4%を下回る結果となった。</p>
<p>言葉の特徴や使い方に関する事項</p>	<p>○思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中での使い方を問う問題については、県及び国の平均から2～3ポイント上回る結果であった。【2二】</p> <p>●漢字を文の中で正しく使うことを出題の趣旨としている問いに対する、正答率が県及び全国平均を下回った。【3三】</p> <p>●文の中における主語と述語との関係を捉える課題、さらに、文の中における修飾と被修飾との関係を捉える問いに対する、正答率が県及び全国平均を下回った。【3三】</p>
<p>話すこと・聞くこと</p>	<p>○目的や意図に応じ、資料を使って話す力を問う問題では、県及び全国の平均を2ポイント上回っている。【1三】</p> <p>○資料を用いた目的を理解する力を問う問題では、全国平均を5ポイント、県平均を3ポイント上回る結果であった。【1二】</p>
<p>書くこと</p>	<p>○自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える問題では、全国平均と比べ、2ポイント上回る結果であった。【3一】</p> <p>●目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題では、全国平均から7ポイント下回る結果であった。【3二】</p>
<p>読むこと</p>	<p>○文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する問題では、全国平均を5ポイント、県の平均を3ポイント上回る結果であった。</p> <p>○目的に応じ文章と図表とを結びつけて必要な情報を見つける問題では、県及び全国の平均と同程度の結果であった。</p>
<p>児童質問紙 国語に関連する質問 問43～51</p>	<p>「国語が好きですか」の問いに対して「当てはまる」と回答した児童の割合が、20%で県及び全国平均を下回り、「当てはまらない」と回答した児童の割合が17%であり、県及び全国平均を上回る結果となった。「国語の勉強は大切だと思いますか」の問いに対しては、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を合わせた割合は、ほぼ県及び全国と同程度のポイントであった。しかし、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の問いに対しては、「当てはまる」と回答した児童が60ポイントで、県及び全国の平均値より5～7ポイント低い割合だったことから、国語の授業で学習する内容は大切だと思っはいるけれども、なぜ、大切なのか、将来、どういう場面で必要になってくるのかなどが明確でないため、国語を学ぶことは、他の教科や日常生活、他者との関わりの場面など、様々な場面で必要となることを、子どもたちに伝えていく必要がある。</p>

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと(国語)

言葉の特徴や使い方に関する事項については、自分の考えを主張する文章を書くことができるかどうかを見ることを出題の趣旨としているが、読み手に向けて書く文章に対して、正しい漢字を用いて書いたり、主語と述語、修飾語と被修飾語の関係に気をつけて書いたりすることに課題がみられた。

話すこと・聞くことについては、スピーチの構成を考えたり、資料を活用して話したり、話の内容を明確にし、自分の考えが伝わるように話すことが求められているが、国語科に限らず、他の教科においても同様の活動を多く行っていることもあり、県や全国の平均値より高い結果がみられた。

書くことについては、理由や事例を明確にしなが筋道を立てて自分の考えを述べる必要がある。そのために文章の構成や展開を考えたり、書き表し方を工夫したりすることが大切であるが、自分の考え方が伝わるように書き表し方を工夫することに課題がみられた。

読むことについては、内容の中心となる事柄や書き手の考えの中心となる事柄を把握する問題については、全国平均、県平均を大きく上回る結果が見られた。

領域ごとの指導の改善点をあげる前に、児童が、国語を学ぶことは、他者とのかかわりの中で、自分の考えや気持ちを適切に伝えること、相手の考えや気持ちを適切に捉えるために大切な学びであることを、伝えていく必要があると考える。

領域ごとの改善点については、以下に列举する。

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

漢字の学習指導に当たっては、読み方や字形に注視して繰り返し練習をすることだけにとどまらず、自分が書いた文章を読み返す中で、正しい使い方を習得できるように指導することが大切である。さらに、漢字使って文や文章を書くという機会を作ることも大切である。

また、修飾と被修飾との関係について理解するために、修飾語がどの語句を詳しくしているのかをはっきりさせることを指導することも有効である。

【話すこと・聞くこと】

国語科に限らず、他の教科においても同様の活動を多く行っていることで、インターネット等から得た情報の中で、目的や意図を伝えるためにどのような資料を用いることが効果的かということを取捨選択し、効果的に活用を行っていることがうかがえる。今後も、発表の場面を多く持つとともに、発表の際には、話し手の様子や聞き手の様子を動画で撮影したりしながら、自らの表現や聞き手の反応を客観的に捉えるような活動も有効である。

【書くこと】

自分の考えや意図を発表する活動において、資料を効果的に活用する力はあるが、それを文章として相手に伝わるように書き表し方を工夫するという点に課題がある。一方的に、自分の考えや意図を伝えるだけでなく、異なる立場の考えを取り上げ、それに対する自分の考えを明確にできるような学習を行うこと。さらに、どの部分を詳しく書く必要があるのかということ、自分で判断して書くことができるよう指導していくことが大切である。

【読むこと】

要旨を把握するためには、書き手が文章で取り上げている内容の中心となる事柄や、書き手の考えの中心となる事柄などを把握するために、文章全体の構成を捉えることが大切である。

文章の中の中心となる事柄を把握するためには、書き手がどのような感想や意見などを持っているかなどに着目させて、事実と感想、あるいは意見などとの関係を押さえ、文章全体の構成を捉えることができるように指導することが重要である。

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（中学国語）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>結果の概要</p>	<p>全体の平均正答率は71%であり、全国、神奈川県と比べて約6ポイント高い結果であった。</p> <p>学習指導要領の領域等、評価の観点、および問題形式的において、全て国及び県より高い結果となっている。その中で、「国語への関心・意欲・態度」については、全国、神奈川県と比べて約7ポイント高い結果であった。</p>
<p>話すこと 聞くこと</p>	<p>○「話し合いの話題や方向を捉える」問題および「質問の意図を捉える」問題では9割を超える生徒が正答しており、全国、神奈川県と比べて約4ポイント高い結果であった。【1一・1二】</p> <p>○「話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える」記述式問題では、県、全国平均より約9ポイント上回る結果であった。【1三】</p>
<p>書くこと</p>	<p>○「書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互関係に注意して書く」問題、「書いた文章を互いに読み合い、文章の構成に工夫を考える」問題、「伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く」問題すべてにおいて、県及び全国平均を上回る結果であった。</p> <p>【2一、2二、4四】</p> <p>○記述式問題の無回答率の平均が、県、全国平均の約半分であった。【2二、4四】</p>
<p>読むこと</p>	<p>○「場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する」問題では、県、全国平均を10ポイント以上上回る結果であった。【3二】</p> <p>○「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つ」問題では、県、全国平均よりも約7ポイント上回り、無回答率は約7ポイント下回る結果であった。【3四】</p>
<p>伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項</p>	<p>○「文脈に即して漢字を正しく読む」問題では、9割5分を超える生徒が正答している。【4一①、4一②】</p> <p>○「事象や行為などを表す多様な語句について理解する」問題では、県、全国平均より約8ポイント上回る結果であった。【4二】</p> <p>○「相手や場に応じて敬語を適切に使う」問題は、県及び全国平均とほぼ同じ正答率であった。【4三】</p>
<p>生徒質問紙 国語に関連する質問 問 43～51</p>	<p>「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりしていますか」という問いに対しては、肯定的な回答が約82%であったことから、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりすることが概ねできていると考えられる。</p> <p>また、「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか」の問いに対して、否定的な回答をした生徒が、全体の4分の1程度いることから、自分の考えを話したり必要に応じて質問する力を高めることが課題であると考えられる。</p>

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと

話すこと・聞くことについて、話合いの話題や方向を捉えることはできているが、適切な発言について考えることに課題がある。

書くことについて、書いた文章を互いに読み合う場面において、文章の構成にどのような工夫があるかを捉えることはできているが、遂行する場面において、語句や文の使い方、段落相互の関係について考えることに課題がある。

読むことについて、文章を読み、登場人物の言動の意味を考え、内容を理解することはできている。文脈の中における語句の意味を理解したり、場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解したりすることに課題がある。また、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つことに課題がある。

「国語の勉強は好きですか」という質問に対し、三分の一の生徒が否定的な回答をしている。より多くの生徒が国語の勉強が好きになれるよう、さらなる指導改善が望まれる。

領域ごとの改善点については、以下に列挙する。

【話すこと、聞くこと】

話合いを効果的に進め、互いの発言を踏まえて、考えをまとめたり広げたり深めたりする力を身に付けるために、「話すこと」に関する指導事項と「聞くこと」に関する指導事項との関連を図って指導する必要がある。例えば、目的に沿って、互いの考えを伝え合ったり生かし合ったりする話合いや議論、討論などの言語活動を通して指導することが効果的である。

【書くこと】

読み手の立場に立ち、自分が書いた文章について捉え直し、分かりやすい文章に整える力を身に付けるために、第1学年では、表記や語句の用法、叙述の仕方などを、第2学年では、表現の効果などを、第3学年では、目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめることについて指導する必要がある。

【読むこと】

文章の内容を理解したり自分の考えを形成したりする力を身に付けるために、[思考力、判断力、表現力等]の「C 読むこと」の学習過程を意識しながら、書く指導事項について意図的・計画的に指導する必要がある。例えば、各学年の(2)イに示されているような、文学的文章を読んで考えたことなどを記録したり伝え合ったりする言語活動を通して指導することが効果的である。また、各学年の[知識及び技能(3)]の「読書」に関する事項と関連を図り、生徒の日常の読書活動に結びつくように指導することも有効である。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

話や文章の中で、相手や場に応じた語句を選んで用いることに留意するように指導することも大切である。その際、各学年の[思考力、判断力、表現力等]の「B 書くこと」(2)イに示されているような、実用的な文章を書く言語活動との関連を図ることも有効である。

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（算数）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>結果の概要</p>	<p>本市の平均正答率は72%であり、全国、神奈川県の前平均正答率をやや上回る結果であった。</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能については、多くの児童にほぼ身につけているといえるが、それらを活用しながら思考・判断し、理由や求め方などを表現する部分には、課題が見られる。</p>
<p>(算数) 数と計算</p>	<p>○示された除法の結果を、日常生活の場面に即して判断することについて、85%以上の児童が正しくできている。【4(1)】</p> <p>●小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適応して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述することに課題がある。【4(3)】</p> <p>○正答率が全国、神奈川県より低い、無解答率も全国、神奈川県より低い。【4(3)】</p>
<p>(算数) 図形</p>	<p>○複数の図形を組み合わせた図形の面積を、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることについて、75%以上の児童が正しく理解できている。【2(2)】</p> <p>●複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方を考え、記述することに課題がある。【2(3)】</p>
<p>(算数) 測定</p>	<p>○条件に合う時刻を求めることについて、90%以上の児童ができています。【1(4)】</p>
<p>(算数) 変化と関係</p>	<p>○速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することについて、85%以上の児童ができています。【1(2)】</p> <p>○速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことについて、85%以上の児童ができています。【1(5)】</p>
<p>(算数) データの活用</p>	<p>○棒グラフから、数量や項目間の関係を読み取ることについて、90%以上の児童ができています。【3(1)(2)】</p> <p>○集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することについて、75%以上の児童ができています。【3(5)】</p> <p>●帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述することについて課題がある。【3(4)】</p>
<p>児童質問紙 算数に関する質問 問52～60</p>	<p>○「算数の勉強は大切だと思いますか」の問いに約94%の児童が、「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思うか」の問いに91%の児童が、それぞれ肯定的に回答しており、多くの児童が、算数が社会の中で有用なものであると感じていることが分かる。</p> <p>○「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか」の問いに約94%の児童が、肯定的に回答しており、多くの児童が公式やきまりを学習する際に、その意味を理解しようとしていることが分かる。</p>

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての逗子市としての取り組み

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと(算数)

基礎的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力を育成するために、身に付けた知識・技能を活用して、自分の考えを説明したり、記述したりする学習を心がける。また、その際には、生活場面における事象と算数の内容を関連付けて考えたり、学習したことを用いて自分の考えを表現したりなど、主体的に学習に取り組める課題や場の設定及びそのための支援について工夫することが大切である。領域ごとの改善点については、以下に挙げる。

【数と計算】

* 計算に関して成り立つ性質を見だし、表現することができるようにする指導を充実させるためには、適用する数の範囲を広げていながら統合的・発展的に考え、共通点に着目させ、ほかの数でも成り立つかどうか確かめることができるようにすることが大切である。また、見いだした性質について、その意味を考え、どの数でも当てはまるようにまとめるよう問い返すなど、一般的に表現しようとする態度を育てることが大切である。

【図形】

* 図形の学習においては、図形についての見方や感覚を豊かにすることが大切である。単なる知識として図形の性質を指導するだけでなく、具体物を操作しながら図形を構成したり分解したりする活動を通して、図形の性質や構成要素に着目して考察し、基本的な平面図形について理解できるようにすることが大切である。

【測定】

* 長さ、重さ、時間、広さ、かさなどの量の概念を育成するためには、具体物などの量の大きさを比べる活動を行うことが大切である。身の回りにあるものを実際に比較する活動を通して、量の概念が次第に形成されていくため、直接あるいは間接的に大きさを比べる場面を積極的に取り入れることが大切である。また、日常生活の様々な場面と関連付けて量の大きさを比べたり測定したりできるよう工夫することが大切である。

【変化と関係】

* 伴って変わる二つの数量の間の関係を、言葉、図、数、表、式、グラフなどを用いて表し、変化の様子や対応の規則性を読み取ることができるようにすることが大切である。また、日常生活の中で、伴って変わる二つの数量関係が成り立つ場面を課題に設定するなど、日常生活での問題解決に生かす活動を取り入れることが大切である。

【データの活用】

* 日常生活において、目的に応じて、必要な資料を収集し、グラフから資料の特徴や傾向を読み取ることができるようにするとともに、複数の資料の特徴や傾向を関連付け、一つの資料からは判断することができない事柄についても判断することができるようにすることが大切である。また、統計的な問題解決活動を行う場面を設定し、その結論をレポートやポスターなどにまとめて発表する活動を通して、表現力を伸ばすことも重要である。

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の分析（数学）

逗子市教育委員会

調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p>結果の概要</p>	<p>本市の平均正答率は63%であり、全国、神奈川県の前年調査を上回る結果であった。</p> <p>基礎的・基本的な知識・技能は、一定の生徒にはほぼ身につけているといえるが、それらを活用して、数学的な見方や考え方を働かせながら問題解決の方法や理由を説明する部分に課題が見られる。</p>
<p>(数学) 数と式</p>	<p>○具体的な場面で、一元一次方程式をつくることや、整式の加法・減法の計算を行うことについて、約80%の生徒ができています。【1】【2】</p> <p>○問題場面における考察の対象を明確に捉えることについて、約90%の生徒ができています。【6(1)】</p> <p>●数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することについて課題がある。【6(3)】</p>
<p>(数学) 図形</p>	<p>○扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について、約78%の生徒が理解できている。【3】</p> <p>●平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することについて課題がある。【9(1)】</p> <p>●ある条件の下でいつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することについて課題がある。【9(3)】</p>
<p>(数学) 関数</p>	<p>○与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることについて、約95%の生徒ができています。【7(1)】</p> <p>●関数の意味を理解し、表現することについて課題がある。【4】</p> <p>●事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することについて課題がある【7(2)】</p>
<p>(数学) データの活用</p>	<p>○ヒストグラムや代表値の意味について理解し、与えられたデータから中央値を求めることや、ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることを、80%以上の生徒ができています。【5】【8(1)】</p> <p>●相対度数の必要性和意味の理解について課題がある。【8(2)】</p> <p>●データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することについて課題がある。【8(3)】</p>
<p>生徒質問紙 算数に関する質問 問52～60</p>	<p>○「数学の勉強は大切だと思いますか」の問いに80%以上の生徒が、「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の問いに70%以上の生徒が、それぞれ肯定的に答え、多くの生徒が、数学が社会で有用なものであると感じていることが分かる。</p> <p>○「数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか」の問いに81%の生徒が、「数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」の問いに87%以上の生徒が、それぞれ肯定的に回答しており、多くの生徒が数学の課題に対して、その意味を理解し、解き方や考え方の過程を大切にしながら取り組んでいることが分かる。</p>

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて逗子市として取り組むこと(数学)

基礎的な知識・技能の習得を図るとともに、習得した知識を活用して問題を解決したり、事柄や事実から問題を見いだしたりする学習をより一層充実させ、思考力・判断力・表現力を育成する必要がある。そのためには、様々な事象を数理的に捉える、数学的に表現・処理する、解決過程を振り返り得られた結果の意味を考察するなどの活動を通して、数学を活用して事象を論理的に考察する力を養う必要がある。

領域ごとの改善点については、以下に挙げる。

【数と式】

- * 文字を用いた式の中の文字のもつ意味について理解を図るために、文字にいろいろな数を代入することで変化する式の値の様子から式の意味を考察するなど、具体的な数を用いて表現し、文字のもつ意味について考えることが大切である。
- * 事柄が一般的に成り立つ理由を、筋道を立てて説明できるようにするために、成り立つと予想した事柄について、文字式や言葉を用いて解決するための見通しをもち、その見通しを基に根拠を明らかにして説明する活動を充実させることが大切である。

【図形】

- * 図形の学習においては、実際に図に表したり、作図したりするだけでなく、論理的に考察するとともに、考察したことについて筋道立てて説明することが大切である。また、その際には、自分が納得できるとともに他人を説得できると実感できるように、生徒が見いだしたことや工夫したことなどを、数学的な表現を用いて論理的に説明し伝え合う活動を充実させることが大切である。

【関数】

- * 様々な問題を数学的に活用して解決できるようにするために、問題解決の方法に焦点を当て、「用いるもの」と「用い方」を明確にして問題解決の方法を説明する活動を充実させることが大切である。その際に、問題解決のために表した表、式、グラフをどのように用いればよいか説明し合う場面を設定し、検討する活動を充実させることが大切である。
- * 日常生活や社会の事象などの具体的な場面に関数を活用することができるよう、関数を用いて具体的な事象を捉え考察するとともに、その考察の過程や結果を表、式、グラフを用いて説明する活動を充実させることが大切である。

【データの活用】

- * 代表値を求めたりデータの分布の様子を読み取ったりする場面を設定し、その傾向を捉えて、データに基づいた判断や主張を批判的に考察することを通して、よりよい解決や結論を見いだすことができるようにすることが大切である。
- * 日常生活や社会における不確定な事象に関する問題に対して、目的に応じてデータを収集し、ヒストグラムなどに整理し、そのデータの傾向を読み取り、それに基づいて判断し統計的に問題解決する活動を充実させることが大切である。

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果分析（児童質問紙）

逗子市教育委員会

特徴的なことや課題と考えられること等

○5年生までに受けた授業でコンピュータなどのICT機器を「ほぼ毎日」あるいは「週1回以上」使用していると回答した児童が72%でした。GIGAスクール構想による一人1台の学習用情報端末が整備される前から、小学校ではタブレット端末が1クラス分整備されていたこともあり、積極的な活用がされていたことがうかがえます。さらに、ICT機器を友だちと意見交換をしたり、調べたりするために「ほぼ毎日」あるいは「週1回以上」活用していると回答している児童が68%でした。学習の中でコンピュータなどICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う児童が92%でした。今後、授業の中で、一人1台の学習用情報端末の効果的な活用が期待されます。

●自己肯定感が低かったり将来の夢や目標が持ててなかったり、難しいことでも失敗を恐れずにチャレンジすることを避けたりする児童が全体の20%います。同様に学校に行くのは楽しいと思いますか、という質問に対して、「当てはまらない」「どちらかと言えば当てはまらない」と回答した児童が20%います。この数値については、全国平均よりも若干高い結果となっています。

●どんな理由があってもいじめはいけないことだと思ふかの問いに対して、3%の児童が「当てはまらない」「どちらかと言えばあてはまらない」と回答しています。この数字を0%とすることを、道徳をはじめ教育活動全般で取り組む必要があります。

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての学校としての取組

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

・ICT機器については、引き続き、授業の中で協働的な学びや個別最適な学びの一体化に向け、授業中の全ての時間で使用するのではなく、どの場面で活用することがより効果的な活用かを研究を深めながら積極的に活用していく。

・ICT機器の活用を進めるにあたっては、児童・生徒のみならず教職員についても情報リテラシーの向上を図るとともに情報モラル教育の充実を図る必要がある。

・学校が児童にとって安全・安心できる場となるために、これまで逗子市立学校において推進してきた支援教育を継続していく。

・すべての児童・生徒に対する一次支援（いじめ・不登校などの未然防止の取組）について、学級における「授業の工夫」「援助的な学級集団づくり」など、コロナ禍においては、一層丁寧な取り組みが必要である。

・令和3年10月1日に逗子市いじめ防止基本方針が策定された。方針の基本理念の一つに、「いじめは、人間として決して許されない行為であるということ、すべての児童・生徒、保護者、教職員等学校関係者、その他児童・生徒に関わる全ての大人が共有し、いじめの根絶に取り組めます。」とあります。子どもたちに関わる大人が、この理念を胸に刻み、いじめ防止に取り組んでいく。

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果分析（生徒質問紙）

逗子市教育委員会

特徴的なことや課題と考えられること等

○将来の夢や目標を持っていますかの質問に対し、「当てはまらない」「どちらかと言えば当てはまらない」と回答した生徒が36%いてどちらも全国平均、県平均より多いです。しかしながら、「人が困っているときは進んで助けていますか」に対し85%、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対し95%、「友だちと協力するのは楽しいと思いますか」に対し91%の生徒が「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答しています。将来的な夢や目標に対しては、なかなか考えにくい状況ではあるようですが、友だち、家族など身近な存在のために役に立ちたい、協力したいという生徒たちの気持ちは大いに育っていると考えます。

●「地域の行事に参加していますか」に対し63%、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」に対し57%の生徒が、「当てはまらない」「どちらかと言えば当てはまらない」と回答しています。これまで各中学校では、学校支援地域本部事業で地域の方との交流や地域のボランティア活動に参加する機会がたびたびありました。しかしながら、昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の行事が中止になり、学校においてもキャリア教育に係る職場体験などを中止せざるを得なかったなどの影響が考えられます。

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果を受けての学校としての取組

逗子市教育委員会

調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

- ・これからの Society5.0 の時代を生きていく、生徒たちにとって情報活用能力の育成や好奇心、探求力を養っていくことが必要となります。そのために体験学習や異年齢交流、身近な大人との関わりの機会を増やしていくことが求められます。
- ・キャリア教育を通して、自分の将来を考えるのに役立つ理想とする大人のモデルを見つけ、自らの将来に向けた夢を描けるようにしていくことが重要であると考えます。
- ・中学校においても小学校同様、ICT 機器については、引き続き、授業の中で協働的な学びや個別最適な学びの一体化に向け積極的な活用が望まれます。その際、生徒が ICT を適切・安全に使いこなすことができるようネットリテラシーなどの情報活用能力の育成が必要です。
- ・あわせて、生徒のスマートフォンの所持率が 96.1%あります。SNS やネットを介したはじめにつながる可能性もあることから、情報モラル教育の徹底や道徳などを通して相手を思いやる心の育成が大切になってきます。
- ・「学校の授業時間以外に普段1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」の質問に対して、30分から少ない～全くしないと回答した生徒が71%いました。読書離れが懸念されますが、学校においては朝の読書など活動や図書館指導員による本に親しむ環境づくりの取組など、本に接する機会を作っていくことも大切だと考えます。